

消費者動向調査 No.110

テーマ「夏のボーナス使いみち調査」

調査時期 平成 24 年 4 月

調査対象 福岡県内のサラリーマン家庭の主婦 500 人
(うち回答者 486 人、回答率 97.2%)

回答者区分

A.年代

	%
20代	6.6
30代	28.8
40代	36.4
50代	18.3
60代	9.9

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	45.0
妻だけ	10.7
両方	44.3

当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

西日本シティ銀行
NCBリサーチ&コンサルティング

[調査結果本文]

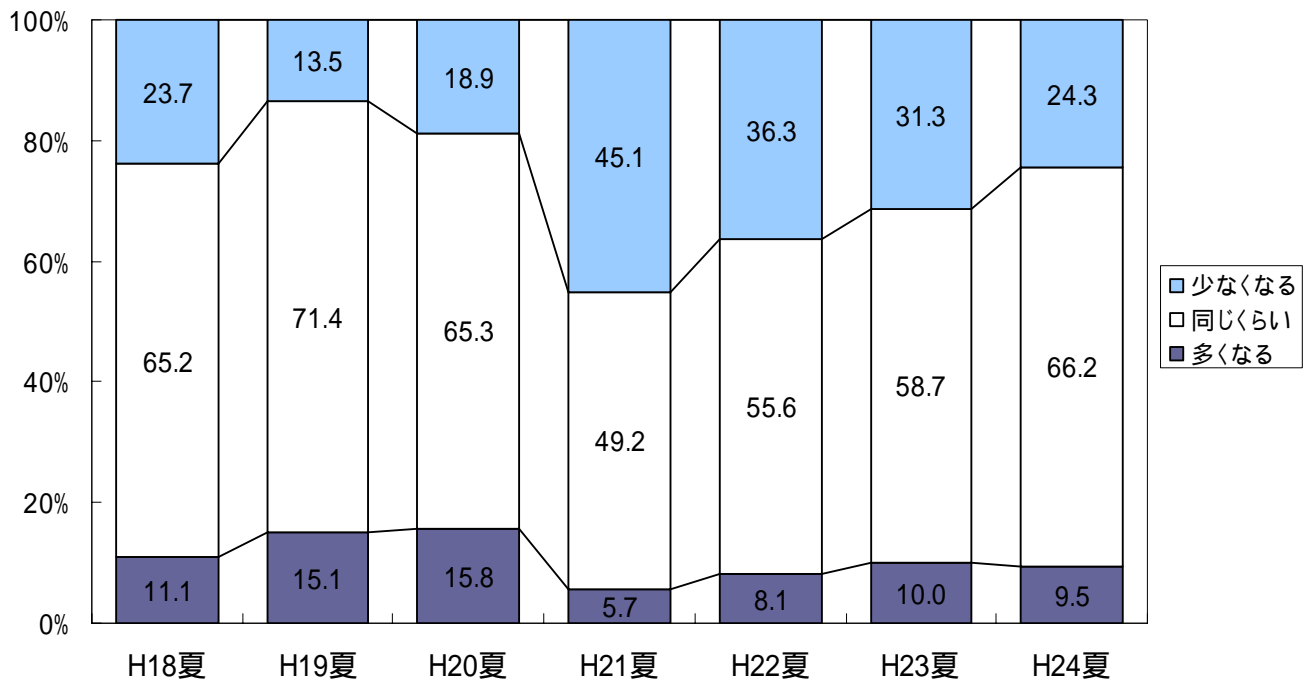
内閣府は5月の月例経済報告で、「景気は、依然として厳しい状況にあるものの、復興需要等を背景として、緩やかに回復しつつある。」と発表しています。その一方で、欧州政府債務危機を巡る不確実性が再び高まっていることから景気が下振れするリスクや、電力供給の制約や原油高、デフレの影響にも注意が必要と指摘しています。

このような中、消費者はこの夏のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、夏のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に夏のボーナスについての消費動向をたずねました。

今年の夏のボーナス、前年夏と比較して「多くなる」は0.5ポイント減少。

夏のボーナスが前年夏より「多くなる」は0.5ポイント減少し9.5%、「少なくなる」と予想する割合は7.0ポイント減少し24.3%。前年夏よりも、「同じくらい」と予想する割合が増加した。

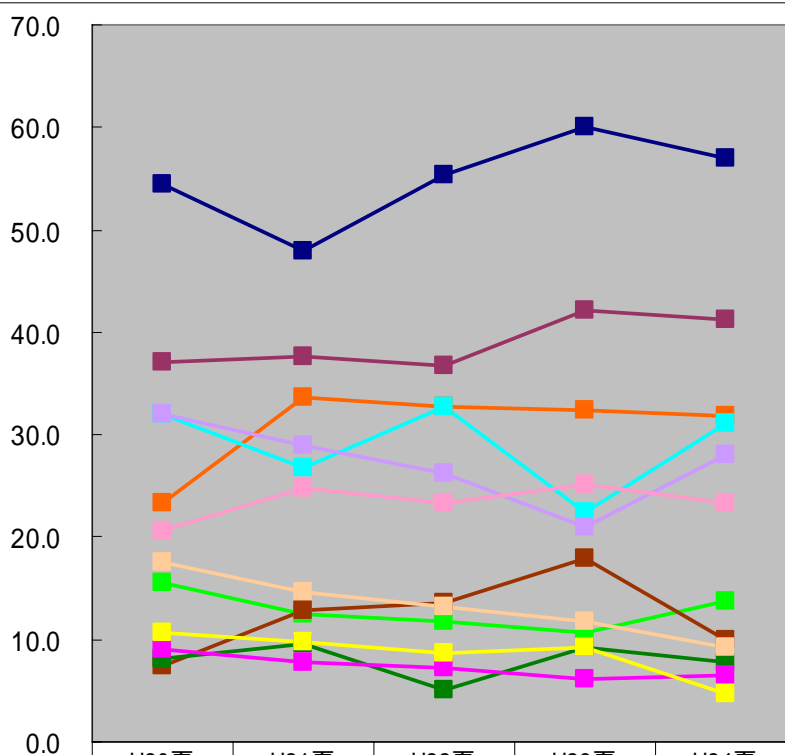
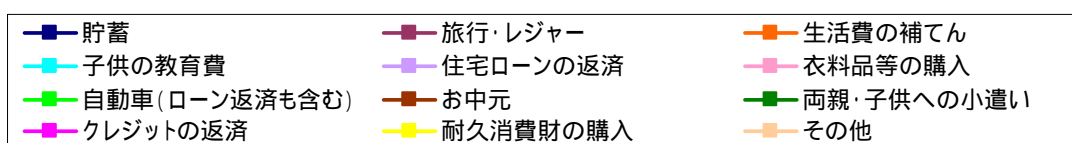
[グラフ1：夏のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか]（単位：%）



夏のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で57.0%。2位は「旅行・レジャー」で41.2%。

夏のボ - ナスの支出予定1位は「貯蓄」で57.0%。これは前年夏の60.0%より3.0ポイント減少した。2位は「旅行・レジャー」の41.2%、3位は「生活費の補てん」の31.9%となった。

[グラフ2：夏のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）] （単位：％）

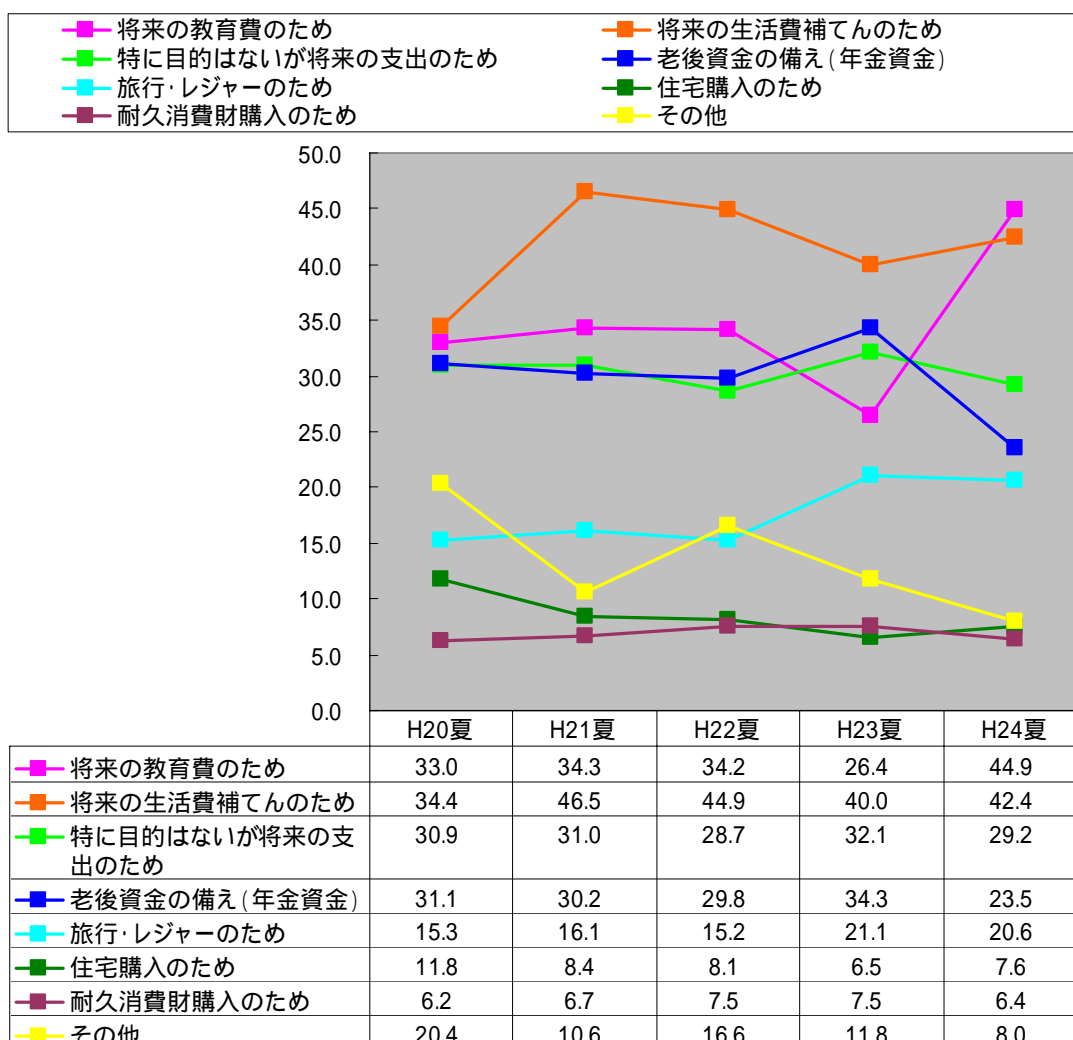


	H20夏	H21夏	H22夏	H23夏	H24夏
■ 貯蓄	54.4	48.0	55.3	60.0	57.0
■ 旅行・レジャー	37.1	37.6	36.8	42.2	41.2
■ 生活費の補てん	23.3	33.7	32.8	32.3	31.9
■ 子供の教育費	32.0	26.7	32.8	22.5	31.1
■ 住宅ローンの返済	32.0	29.0	26.3	20.9	28.0
■ 衣料品等の購入	20.6	24.7	23.3	25.2	23.3
■ 自動車(ローン返済も含む)	15.5	12.4	11.7	10.6	13.8
■ お中元	7.4	12.9	13.6	17.9	9.9
■ 両親・子供への小遣い	8.2	9.6	5.1	9.3	7.8
■ クレジットの返済	9.1	7.8	7.3	6.1	6.6
■ 耐久消費財の購入	10.7	9.8	8.7	9.3	4.7
■ その他	17.5	14.7	13.2	11.8	9.3

ボーナスを貯蓄する目的、1位は「将来の教育費のため」で44.9%。2位は「将来の生活費補てんのため」で42.4%。

夏のボーナスを貯蓄する目的の1位は、「将来の教育費のため」が前年夏に比べ18.5ポイント増加し、44.9%でトップ。次いで「将来の生活費補てんのため」は2.4ポイント増加し42.4%と、先行きが見通しにくい中、引続き将来への備えが上位を占める。

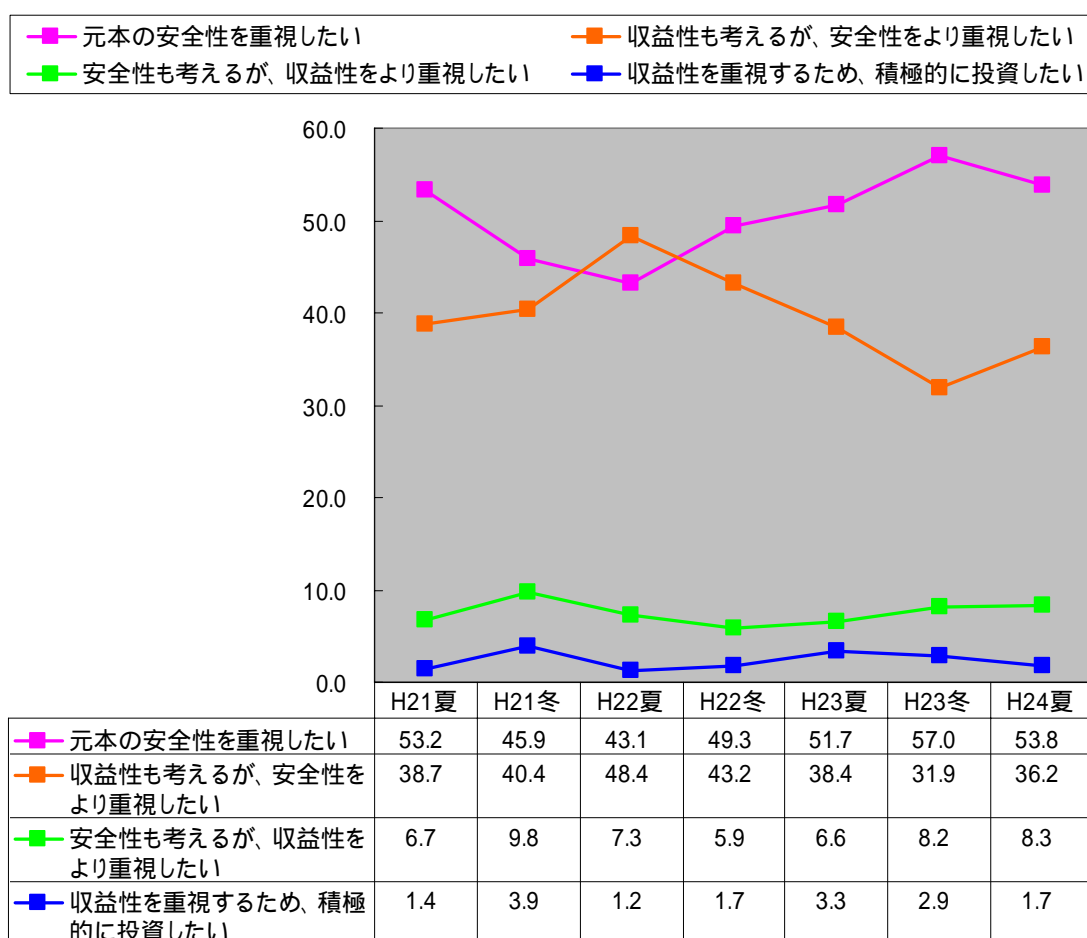
[グラフ3：将来の何のために夏のボーナスを貯蓄しますか（2つまで）]（単位：%）



夏のボーナスを貯蓄する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が53.8%で1位。

「元本の安全性を重視したい」が前年冬から3.2ポイント減少の53.8%で4期連続1位。「収益性も考えるが安全性をより重視したい」が前年冬から4.3ポイント増加して36.2%。引き続き安全志向がみられる。

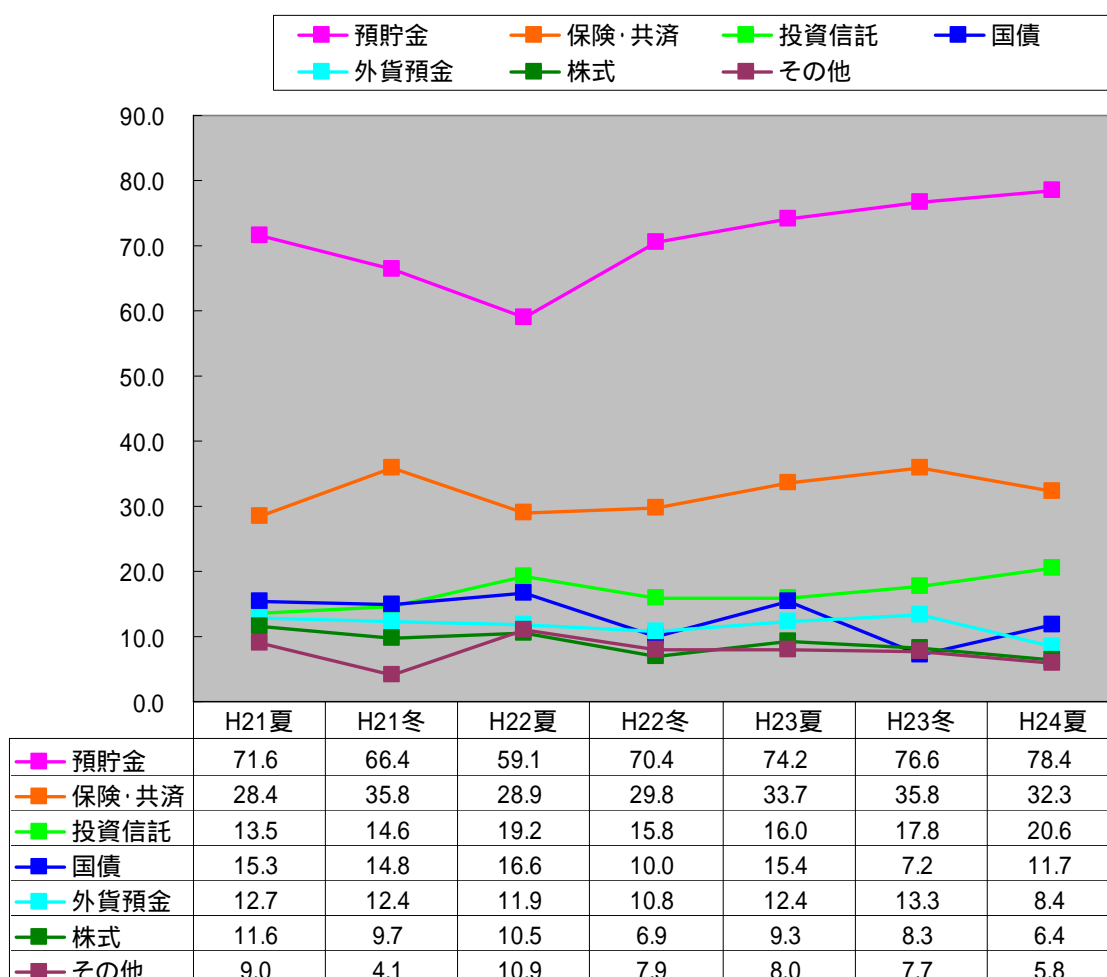
[グラフ4：夏のボーナスを貯蓄する場合、あなたの考えに近いのは]（単位：％）



関心がある金融商品、1位は「預貯金」で前年の冬より 1.8 ポイント増加し 78.4%。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が 78.4%で 1 位。2 位は「保険・共済」で 32.3%。先行き不透明な中、引き続き安定志向が強く、「預貯金」「国債」が増加した。リスク商品では「投資信託」が増加したものの、慎重な姿勢に大きな変化は見られない。

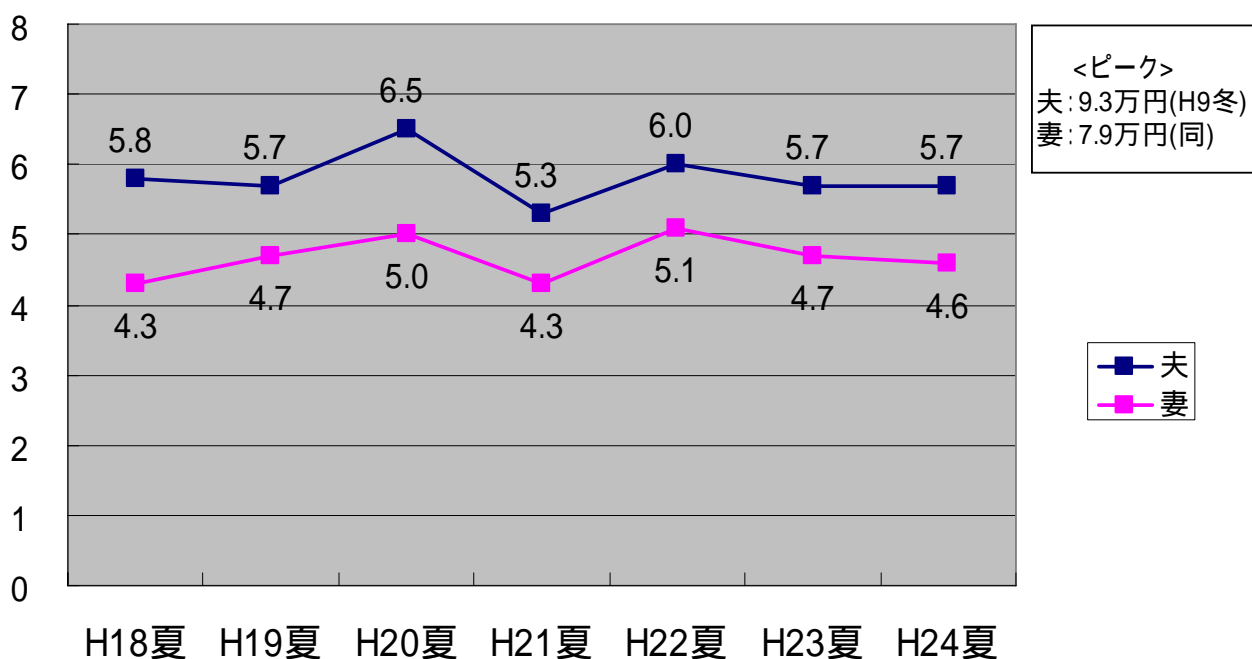
[グラフ 5 : どのような金融商品に関心がありますか(いくつでも)] (単位: %)



夏のボーナス、自由に使える金額は、前年夏に比べて夫は変わらず、妻は1千円ダウン。

夏のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 5.7 万円（前年夏比 0.0 万円）、妻が自由に使える金額は平均 4.6 万円（前年夏比 0.1 万円）。夏のボーナスが“前年と同じくらい”との予想が増加したのを反映し、自由に使える金額は前年の夏からほぼ横這いとなった。

[グラフ6：自由に使える金額はどれくらいですか]（単位：万円）



この調査に関するお問い合わせ先は
 西日本シティ銀行 広報文化部 近道・原田 TEL 092-461-1869
 NCB リサーチ&コンサルティング 調査部 原 TEL 092-476-3051